

平成26年度自己評価表 [最終]

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>「しのものめプロジェクト」の推進 1 学力向上のための教科指導の充実と授業力向上 2 人間力の育成 3 生徒指導の徹底と健康・安全管理の充実</p>
---------------------------	---	----------------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果 (2月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
<p>1 学力向上のための教科指導の充実と授業力向上</p>	<p>①自宅学習時間並びに学習の質を確保する。 ②各教科ごとに学力実態を把握・分析した上で、学力向上プログラムを作成し、授業の質を高める。</p>	<p>○生徒の授業に対する満足度は高い。 ○ほぼ全生徒が家庭学習の必要性を感じているものの、計画的に家庭学習に取り組んでいるのは50%強。 ○大学入試センター試験や二次試験の研究と対策を進め、新課程に対応した指導学習の充実を図りつつある。</p>	<p>○生徒個々が自分なりの学習習慣と学習法をつかむ。 ○家庭学習を毎日計画的に行っている生徒が70%以上。 ○学力層に応じた適切な教科指導により学力向上が図られる。 ○全国模試で校内平均点偏差値が、1・2年生は55を、3年生は50を上回る。</p>	<p>○1・2年生に対し、予復習の課題を徹底する(具体的且つ明確に周知)。 ○スタディサポートや自宅学習時間調査を活用し、生徒一人一人の学習実態に応じた有効な指導を行う。 ○意欲喚起につながる面談を実施する。</p>	<p>・きめ細かな指導や課題の内容や量の調整により学習習慣定着はより進んだが、受け身の姿勢には改善の余地あり。 《生徒アンケート結果》 計画的な家庭学習 56% 課題をこなしている 85% 学習習慣と学習法の確立 53% ・面談は生徒の進路意識の醸成に効果を発揮し、生徒の授業の満足度は高いが、自主的な学びは十分とは言えない。 《生徒アンケート結果》 面談の生徒の有用感 80% ・全国模試は教科間の差もあり、数値目標を達成していない。また、新課程対応に授業進度等で課題が残った。</p>	<p>B</p>	<p>・各自の目標に応じた具体的な数値目標を持たせ、自ら進んで学習に取り組ませる工夫をする。 ・教員相互の授業参観を活発に行い、更なる研鑽に努める。 ・生徒の苦手意識に対する具体的な指導、対策を早い時期に行う。 ・1,2年の段階から先を見据えた学習進度の確保に留意する。</p>
<p>2 人間力の育成</p>	<p>③高い志を持ち、自己の将来像を設計し、実現に向けて努力する力を育成する。自他を大切にし、自己のあり方・生き方を模索する機会として、キャリア教育の充実・ボランティア活動参加を推進する。 ④文武両道を基本とした教育活動の推進。</p>	<p>○学校生活全般において総じて待ちの姿勢の傾向がある。 ○社会との関わりを自覚的に考えて行動したり、自らの将来像を意識したりして、早期からの自立した学習へ取組ができていない。 ○学習と部活動をうまく両立させていると感じている部加入生徒(1・2年)が平成25年度末 51%。</p>	<p>○1年:進路目標を持ち、進路実現のために必要な学習内容・学習方法がわかる生徒が60%以上。 2年:職業や大学等の具体的な進路目標を持ち、大学(学部・学科)の教育内容や入試制度がわかる生徒が75%以上。 3年:適性に応じた進路目標を設定でき、進路実現のための必要な学力を理解し、身につけようとしている。 ○学校全体として地域等への貢献活動に取り組む。 ○学習と部活動をうまく両立させていると感じる生徒が70%以上。</p>	<p>○LHRや「総合的な学習の時間」を活用した進路プログラムにより、進路意識の向上を図る。 ○「鳥取学」、各種講演会など、校内外の教育力を活用し、生徒が高い志を持ち、将来像を描けるよう指導する。 ○ボランティア募集を広く案内し、参加しやすい環境を整える。 ○計画的な家庭学習が確保できるように、効率的な部活指導を展開する。</p>	<p>・「鳥取学」、講演会、面接、「進路だより」等により、模試等の学力状況、具体的な学習方法の提示を行い、進路意識の醸成を図り成果を得た。 《生徒アンケート結果》 1年:61% 2年:80% 3年:81% ・ボランティア活動参加状況は例年並みにとどまった。 ・地域の方と生徒会との話し合いの場を持ち、次年度の地域活動の計画を立案中。 ・おおよそ70%の生徒と保護者が学習と部活動が両立できていると感じている。7月と2月のアンケートで数値はほぼ同じ。</p>	<p>B A</p>	<p>・各取組の目標、目的や実施後の反省・課題をより一層明確にし、3年間を見通した進路プログラムとしての共有化を進める。 ・参加可能なボランティア活動を年間予定で生徒に示し、生徒が自主的に参加できる体制を整える。 ・全教育活動を通して、生徒のがんばる力・諦めない力・継続力を育む。 ・部活動の終了時間や部活動後の帰宅指導について全顧問で認識を共有し、時間の自己管理と学習との両立について部長会でも指導する。 ・生徒各々に両立の理想像を持たせる。</p>
<p>3 生徒指導の徹底と健康・安全管理の充実</p>	<p>⑤規範意識を持ち、健康・安全に関する自己管理のできる生徒の育成。</p>	<p>○不登校傾向の生徒が学年に数人いる。 ○時間管理が不十分な面があり、提出物が遅れたり、睡眠不足で体調不良になったりする生徒がいる。 ○自転車マナーについて、市民から指摘を受けることがある。登下校時の自転車による接触事故が十数件ある。</p>	<p>○継続または連続して年間30日以上欠席する生徒の減少。 ○スマートフォン等でのインターネットの使い方を含め、各家庭における生活習慣(起床時間、帰宅時間、自宅学習開始時間、就寝時間等)を改善しようとする姿勢が見られる。 ○自転車マナー向上と登下校時の事故減少。</p>	<p>○hyper-QUやいじめアンケート等を活用して生徒の状況を的確に把握し、早期の対応を行う。 ○宅習時間調査・生活習慣チェックシート・各種講演会等を効果的に活用する。 ○年間を通した、定期・随時の登下校時の交通安全指導を行う。</p>	<p>・継続または連続して年間30日以上欠席する生徒は減少傾向。教育相談・保健室・担任・SC・専門機関が連携して生徒を支援。いじめアンケート等をもとに迅速に対応できた。 ・生活習慣チェックシートの活用を推進。保護者の研修会も実施。生徒の生活習慣改善の意識が高まってきた。 ・マナー・モラル・ルール全般についての意識が低く、他者への思いやりや社会性に乏しい生徒が見られるが、一方、スマートフォン等の使い方については教員・保護者の問題意識が高まってきた。</p>	<p>C</p>	<p>・健康課題を明確にし、共通理解のための効果的な情報発信を工夫する。 ・基本的生活習慣や礼儀の大切さについて、保護者を巻き込んだ啓発を行う。 ・スマートフォン、自転車交通安全マナー等についての講演・講習会を節目節目で実施する。 ・自転車事故の事例を検証し、指導に用いる。</p>

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]